

と遠き將來の目的を唯其儘に之を現在に實現せんとする様である。

先頃も某教授は案を叩いて慨嘆して云ふには「今の世は理想とか完全とか云ふ方面には誰も熱心に研究もし慾望もするが扱て其實行となるといやもを話にならぬ。兎角今時の人の目は遠大に走せて卑近に疎いと云はねばならぬ。此分で押して行つたら希臘の天文學者ではないが溝や古井戸に落ちないのが目付ものだらうよ」と云はれたが味ふ可きことである。京都の谷本博士も近來諸所の教育會などで頻りに演説して世人が徒に擴充に急しくして適應に拙なるを慨嘆して居られる。兒童教養上に於ける一般の趨勢も亦然考へることが出来る。徒に先の事ばかり考へて之を現在に如何に適應せしむ可きかと云ふことには餘り重きを置かぬのは恰もハイガラが日本の家屋へ椅子や食卓で生活しやうとする様なもので到底思はしい結果が得られるものではない。

幼兒に課する遊嬉の種類

二十

芙蓉生

幼兒には何んな遊戯をさせたらよいものか、と云ふ質問は幼稚園の先生や熱心な親御からは常に絶間なく出るのであるが、之が根本的解決については嘗てフレイベルが云つたことがある。

「幼兒の遊嬉は如何なるものがよいかと云ふて直に返答が出来ない何故かと云ふと一体遊嬉と云ふものは幼兒活動の中に見出す可きもので作り出すことの出来ないものであるからだ。余は凡ての遊嬉を幼兒に學んだ。而して尙今日も學んで居る。余は自ら學び得たるものを再び彼等に與ふるに過ぎない」と斯く云つて居るが如何にも卓言である、數十年の昔既にフレイベル其人の口から斯様な名言が出て居るのに其我國に始めて幼稚園の設立せられて以來今日に至る迄も「不自然な人工を幼兒に加へて其自然活動を妨ぐ」と云ふ批難が動もすれば幼稚園の上に冠せられたのは如何にも不思議千萬なことであると思ふ。併し是より尙一層不思議

議なことがあるのはフレールベルよりはすつと遠く三千年の昔に逆つた希臘の時代に於て既にブラトールと云へる人の口から殆んど是と同様な事が云はれて居ることである。ブラトールの云ふには「三才から六才迄の時期に於ては兒童の意味に於ける遊嬉を赦さなければならぬ。云ひ換ゆれば此時分の遊嬉と云ふものは其年頃の子供の自然に傾く所のもので彼等同年輩位のもので一所に集合した時には自ら見出される様なものでなければならぬ」と云つて居る。尙夫れのみでなく「吾人は遊嬉でもつて兒童の傾向を其業務に有益な方向に導くことが出来る」とか又「一定の遊嬉を變更することなく繼續させたらば夫れは以て品性陶冶の手段とすることが出来る」などと云つて居るが如何にも今日に於ける幼児教育の根本主義を闡明して居るではないか。何れにしても幼児を誘導すべき遊嬉の種類は一定の種類を限り一定の方法を限ることの出来ないもので時と處によりて色々變化す可きものであることが知れるではないか。既に時と處とに應じ

て變化す可きものであるとしたらば今假りに一つの新遊嬉を發見して之を幼児に行らして見たからとて此新遊嬉が何時迄同じ形を維持するであらうか、即ち舞踏や体操と違つて漸次に色々な方面に向つて變化と改正とが加はる可きものだらうと思ふ、然るに世の幼稚園などには數年前に工夫された遊嬉が今も尙其儘に残つて居るのがある様だが是は大きに考へものだ。勿論古いからと一概に悪いのではないから残す可きを残すに何の差違がないのみか其は大に必要なる事には違ひないが、唯無頓着に不注意で過して居る中に何時か數年を経ると云ふことのない様に注意しなければならぬと思ふ。

- ▲人の年齢 は大抵定りあるものにて或る統計學者の調査によるに男女共二十五才に達せるもの二人に付一人は必ず六十五才迄生存する筈なりといふ
- ▲人間の手先 には八分四方につき大凡二千五百の毛穴あり、手先全體の毛穴を繋ぎ合す時は其長さ約二里に達すべしといふ